

栄養豊富な緑黄色野菜 カボチャの カルシウム強化栽培！

体質強化！品質向上！

食味向上！鮮度保持！



果肉の黄色が濃いほどカロチンを多く含み、ビタミンA、ビタミンC、カリウム、カルシウム、鉄分と栄養豊富で、食物繊維も多く含んだ典型的な緑黄色野菜です！！

【硫酸カルシウム肥料】



カルゲン®

【粉状・粒状】 15 kg入り

カボチャ栽培の特長

- ◆ 栽培適性の土壌 pH は 5.5~6.5 の弱酸性
- ◆ 土壌の適応性は広く、選ばないが排水の良い圃場を好む（連作が可能）
- ◆ 栽培適温は日中 20℃~25℃で、ウリ科作物の中では比較的低温でも栽培しやすい
- ◆ 光線不足になると茎・葉の徒長、着果不良、品質低下の原因となる
- ◆ カボチャは吸収力が旺盛で、元肥の窒素量が多いとつるボケの原因となるので窒素過多にならないように肥培管理をおこなう
- ◆ カルシウムとマグネシウムは茎・葉の生産に多く必要とされている。
- ◆ 着果後から果実の肥大と共にカルシウムの要求量は増加

養分吸収量（収穫 1 トン当たり） kg

チッソ N	リン酸 P ₂ O ₅	カリ K ₂ O	カルシウム Ca	マグネシウム Mg
3.9	2.1	8.1	4.7	1.0

カルゲンとは・・・

- ◆ カルシウムとイオウが結びついた石膏（農業用石膏）を主原料に製造したカルシウム特殊肥料
- ◆ 酸性のカルシウム肥料ですから土壌の pH が上昇することなく、連用することで土壌を団粒化して、有効微生物の繁殖を促す
- ◆ 石灰類（炭カル）に比べ約 170 倍水に溶けやすく、作物に吸収されやすい水溶性のカルシウム肥料
- ◆ 作物が健全に生育するために必要なカルシウムの養分補給に最適
- ◆ 特に、窒素過剰による生育障害を軽減（拮抗作用）

カルゲン施用量（当社推奨基準）

	施用方法	施用量	備考
元 肥	全面土壌混和	4~6 袋/10 a	定植前（他の肥料と同時施用）
追 肥 1	土壌灌水・葉面散布 （ネオカル水和剤又は カルゲンβ液剤）	100~150ℓ/10a 1,000 倍液	定期的に葉面散布 農薬と混用可能 （銅剤・アルカリ剤を除く）

☆ 上記の施用量は標準です。土壌診断を基準に施用量を増減してください。

☆ 酸性土壌の場合は石灰類等を加用してください。

☆ 詳しくは、お近くの販売店または営農指導員の方へお尋ねください。

《総販売元》



吉野石膏販売株式会社